

第6学年〇組 学級活動学習指導案

- 1 題材名 6の〇の仲間が、もっと誰とでも話したり活動したりするためにはどうすればよいか、みんなで考えよう。
「ウ 望ましい人間関係の形成」

2 題材について

(1) 児童観

本学級の児童は、業間休みや昼休みには他の学級も交えて、自分の気の合う友達と過ごすことが多い。しかし、その手段に目を向けると、男子の多くは外でドッジボールやサッカーをする一方で、女子の多くは室内に残って会話をしたり図書館へ行ったりするなど、男女別々に行動することが多い。中には男女で話すことに抵抗を感じていたり、仲良しの児童以外に交友関係を広げられなかったりする児童もいる。そこで、学級内の人間関係を広げるために、ペア活動や班活動を取り入れたり、帰りの会での班内遊び活動を取り入れたりした。席が近くの児童同士の関わりを増やす機会を増やすことで、7月に入ってから、友達関係に広がりを見せ始めている。また、徐々に男女間の壁を取り払いつつあり、人間関係に広がりを見せ始めている。

しかし、意識の根底には男女の壁が根強く残っており、集団となると相手を否定したり自分の主張を強くしたりすることがある。また、自分の周辺に気を取られ、孤立しがちな友達に目が向かない。集団活動を行う際には、主張の強い数名の児童のわがままにとらわれ、自分の思いを出せずに集団活動を行う児童もいる。そのためか、みんなで物事に取り組みたいという意識が低い。

そこで、児童の学級への所属意識を高めるために、学級の宝物(学級で行ったよいこと)を増やしたり、自治的活動を充実させたりしたいと考えた。1学期には、話し合い活動の経験を少しずつ積むことで、自分たちの手で計画し実行していく楽しさを感じることができた。さらに、話し合い活動の経験を重ね、集団決定や実践をやり遂げた達成感や連帯感が得られるようにしたい。また、今後は学級内の人間関係を更に豊かにすることが必要だと考えられる。

(2) 題材観

本学級では、人間関係を形成するに当たって、図1のような取り組みを計画した。

本校では2学期に運動会や修学旅行、人権集会と大きな学校行事が行われる。担任としてこれらの行事を協力してやり遂げてほしいと願っている。現在の本学級の実態を考えると、協力する態度を養うために、まずは、今の自分や学級を見つめ、問題に気付かせる必要がある。たとえ問題に気付いていても、みんなで協力するために自分たちの力で解決しようという意識をもつところまでには至っていない。そこで、本題材を通して、今の学級の実態に気付かせ、協力することの必要性を感じさせながら、解決を図ろうとする気持ちが育つようにしたい。

また、中学校に進学すると教科担任制になり、小学校と比べると学級担任との関係が薄くなりがちである。また、いろいろな人とかかわる中で、友達関係も固定化したり、気の合わない友達を疎んじたりしてしまう可能性もある。

そこで、小学校のうちに、どんな集団にも適応できる力をつける必要がある。そのためには、話し合いを通して日常での問題を解決する力を高めていく必要がある。

本題材を児童の自治的な話し合いにより解決に導くことは、題材を自分たちの問題として共有化し、今後の学級生活を更に豊かにしていこうとする意欲につながると考える。

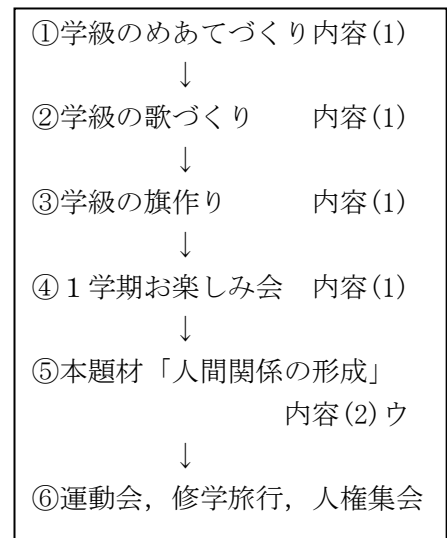


図1 取り組みの計画

(3) 指導観

ア 話し合い活動を取り入れる意義

指導に当たっては、本題材を自分たちの問題として共有化し、自治的な話し合いにより解決に導

くために、話し合い活動の形態をとりたい。また、話し合い活動の形態を取ることで、学級の諸問題を自分で見つけ解決しようとする意欲を高めたい。さらに、話し合い活動の形態では、友達の考えを最後まで聞き尊重しようとする態度や、めあてを意識しながら自分の考えを整理したり、考えを分かりやすく伝えたりしようとする態度も育てられると考えられる。

イ 事前指導

話し合いの柱を事前に知らせ、児童に前もって考えをもたせておくことで、本時の話し合いに全員が意欲的に参加できるようにさせたい。同時に、学級会ノート(原案に自分の意見を書いて貼るもの)に意見を書かせることで、担任が事前に実態をとらえることにより、本時での助言・支援に生かせるよう配慮したい。

協力に関する問題を学級内で共有化するために質問紙によるアンケートを実施する。個人の問題だけでなく学級の問題として取り上げるためにアンケートを実施し、本題材について自分や学級を見つめたり、気付いたりする期間を設ける。実施したアンケートは本時の中で紹介することで、事前に考えていた自分の考えとアンケートの結果を比べさせる。それにより、自分の問題を明確につかませたい。

ウ 本時の指導

本時の指導に当たっては、まず、今の自分や学級を振り返る時間を設けることで、学級の協力に対する問題意識をもたせたい。

次に協力することの必要性を考えさせる。友達の意見を聞くことによって価値を高めるとともに協力することの必要性に対する視野を広げたい。さらに、自分だけでなくみんなも協力することが必要だと思っているという安心感をもたせたい。

そして、解決策を発表させる。知恵を出し合うことで、自分の考えだけでなく友達の考えを参考にすることができるようにする。

最後に行動のめあてを掲示したり、宣言をさせたりすることで実践への意欲を高めさせる。そうすることにより、実践を行う際に声を掛けながら励まし合えるようにしたい。

エ 事後指導

本題材では実践について相互評価を行う時間を設ける。がんばったことを友達から称賛されることで自己肯定感を味わい、今後の実践への意欲を更に高めたい。また、友達のがんばりに目を向けることで、自分の周辺だけでなく、学級全体を考えて、孤立しがちな友達に目が向くようにしたい。本題材で協力についてしっかりと見つめさせることで協力するよさを強く価値付けたい。また、みんなで何かに取り組みたいという意識が高まるようにしたい。

3 題材の目標

学級内における友達関係の問題を自分の問題としてとらえ、協力することの大切さに気付くとともに、問題解決のために自己決定した自分のめあてを守るよう努力することができる。

4 指導計画（* 提→提案者，司→司会グループ）

	全体の流れ	活動のための支援	評価
事前活動	○ 議題集め(全員) ○ 友達関係についてのアンケート調査(全員) ○ 題材決定(提案者と相談) →「友達ともっと仲良くなりたい」 【第1回計画委員会(提・司)】 ・ 題材名の工夫と活動計画の作成 ・ 役割分担 ○ 協力に関して学級の実態を把握する。 【第2回計画委員会(司)】 ・ 話合いのめあて，柱を決める。 柱1 今の様子 柱2 必要性 柱3 解決策 ○ 活動計画表(原案)の配布 【第3回計画委員会(司)】 ・ 話合い活動の準備と打ち合わせ	・ 議題を集める際に，「解決したいこと」の方向からも考えるよう呼びかける。 ・ 提案と教師の計画の中にある友達関係について学級会で話し合うことを知らせる。 ・ 提案者の思いを入れるために，計画委員と担任と一緒に考え，助言する。 ・ 計画委員と担任と一緒にめあてと柱を考える。何のための話合いかを提案理由を基に児童と一緒に考え，話合いのめあてに生かすように助言する。 ・ 事前に原案を配布し，自分の考えをもたせておくことで話合いに意欲的に臨めるようにする。 ・ 諸準備を，前回の司会グループの児童に相談して行うよう助言することで，教師の手をなるべく借りずに，自分たちの手で準備を進めていくことができるようにする。	・ 誰とでも話したり活動したりすることに関心を持ち，自分の考えをもとうとする。【関心・意欲・態度】
本時	○ 話合い活動(1/2，本時) 「6の○の仲間が，もっと色々な友達と話したり活動したりするためにどうすればいいか，みんなで考えよう。」 ○ 話合い活動の後に決めためあてを書く(自己決定)。		・ 誰とでも話したり活動したりするための自分のめあてを決めることができる。【思考・判断・実践】
実践・振り返り	○ 活動全体に対する相互評価(2/2)	・ めあてを意識して実践させるため，自分のめあてを教室に掲示する。 ・ 9/17(金)から自分のめあてや学級で決めたことを実践していく。 ・ 意欲を持続させるため，自己評価をしたり，友達のがんばりを帰りの会で紹介したりさせる。そのことで，これまでの実践を見直し，さらなる意欲を引き出す。 ・ 自己決定をしたことを基に個人として努力し目標の実現を目指した成果について振り返らせ，お互いに評価させる。	・ 誰とでも話したり活動したりすることの大切さを理解することができる。【知識・理解】

5 本時について

(1) 本時の目標

みんながもっと協力できるための方法を学級全体で考えることで、今の自分や学級の実態を踏まえ、継続して取り組めるような自分のめあてを決めることができる。【思考・判断・実践】

(2) 本時の展開

題材	6の○の仲間が、もっと誰とでも話したり活動したりするためにはどうすればよいか、みんなで考えよう。	
提案理由	6の○のみんなは4月のころより仲良くなってきました。男女で話すこともできるようになってきたし、いろいろな友達もできました。でも気の合う友達同士ばかりで分かれて活動することもあります。最後の1年なので、あまり話したことがない人ともたくさん話して仲良くなりたいです。みんなで協力できると仲良くなるしクラスが全体的に明るくなると思って提案しました。	
話合いのめあて	6の○のみんなともっと仲良く協力できるように、今の自分や6の○に合うような方法を考えて意見を出そう。 - 友達の意見を最後まで聞き、友達のいいところを自分の意見に取り入れよう。	
時間	話合いの順序	指導上の留意点(◆は本時の評価)
7分	1 はじめの言葉 2 運動会の応援歌 3 司会グループの紹介 4 題材と提案理由、話合いのめあての確かめ	- 事前に司会グループと打ち合わせをし、話合いの進め方について理解を深めておく。 - 学級全体のことを話し合う意識を高め、元気よく発表できるようにするために、運動会の応援歌を歌わせる。(運動会の練習をしている時期)
8分	5 話合い 柱1 「6の○は誰とでも話したり活動したりできているか。」 ① 自分のことについて発表する。 ② 6の○みんなのことについて発表する。	- めあてを意識して話合いに臨むようにさせる。 - 時間の見通しをもって話合いを行うために、残り時間の提示をする。また、出された意見を短冊に書かせることで黒板記録に掛かる時間を短縮し、話合いを円滑に進められるようにする。 - 話合いは司会グループの進行を中心に進めさせるが、必要に応じて担任が意図的に意見を取り上げたり、称賛したりし、互いの意見のよさに気付かせたりする。また、話合いが停滞したときは、出された意見を整理し、近くの児童と相談させることで、自分の考えを深めるようにさせる。 - 柱1の話合いで、マイナス面ばかりが出ているときは、もっとプラス面を出すように助言し、友達がいてよかったという気持ちを共感させる。 - 自分のことを振り返らせておくことで、柱3の後で自分に合った行動のめあてを選択できるようにする。 - 今の様子を更に深く考えさせるために、報告したアンケートの結果も参考にするように助言する。 - 時間や場所などを具体的に発表させることでそのときの様子を共有化する。
7分	柱2 「誰とでも話したり活動したりすることはなぜ大	柱2で、意見が出にくいときは、協力できたときとできなかったときの気持ちを比べることで協力すること

15分	切か。」 柱3 「誰とでも、もっと仲良く協力するためにはどうすればよいか。」	の大切さについて考えさせる。 ・ 協力についての様々な考えを聞かせることで、協力することの大切さを実感させる。 ・ 柱1で出た意見を振り返ることで、今の自分や学級の実態に合うような方法を考えさせる。
8分	6 話合いの気づき・自分のめあて 7 『〇〇賞』の発表 (最もめあてに沿って話合いに参加していた児童) 8 先生の話 9 終わりの言葉	・ 話合いの後、もっと協力するためのめあてを書かせることで、話合いの振り返りをさせるとともに、事後の実践への意欲を高めさせる。 ◆ 誰とでも話したり活動したりすることについて、今の自分や学級の実態を踏まえ、継続して取り組めるような自分のめあてを学級会ノートに書くことができる。【思考・判断・実践】(ノート) ・ 『〇〇賞』に選ばれた児童に自信をもたせ、他の児童に『〇〇賞』に選ばれた児童の発表の内容を次回の話合いに生かすようにさせる。 ・ 司会グループの児童や話合いのめあてに沿って話合いに参加していた児童を称賛することで、実践や次回の話合いへの意欲を高めさせる。